

ゼロトラスト環境の検討について

- ・令和9年8月末に「校務支援システム用電子計算機等借上」及び「ネットワーク分離システム機器借上」がリース期間満了となります。
- ・教育ネットワークの見直し（ゼロトラスト化など）を行う場合は、このリース期間満了にあわせて導入することが望ましいと考えられます。
- ・ゼロトラストはアクセス制御の強化と教職員の利便性向上を両立させるための有力な手段であると考えられます。

※ゼロトラストとは、「絶対信頼を置かず、常に検証を行う」という考え方であり、多くの政府機関や企業が採用しています。特に教育分野では、学生や教職員の個人情報保護や学術データの安全性確保が重要視されており、そのためには従来型の境界防御型セキュリティから脱却し、アクセスごとに厳格な認証と権限管理を行うゼロトラストモデルへの移行が多く自治体で検討されています。

【小牧市で考えられる効果】

- ・ネットワーク分離ソフトを介さずにデータへアクセスできるため、よりスムーズな操作が可能となります。
- ・現在、市内小中学校25校のパソコン室には、それぞれの校内サーバが設置されており、24時間365日空調管理を行っています。今回のネットワーク構築では、各校のサーバをデータセンターで一括管理する方式を採用する予定のため、サーバにかかる空調費用の削減が見込まれます。
- ・教員が使用する端末はネットワーク環境が整っていれば、場所を問わず利用可能となるため、教員の働き方改革への寄与やペーパーレス化の推進にもつながると考えられます。